

# SAP FI (財務会計) 解説

Financial Accounting: 仕訳・債権・債務・固定資産・決算の全解説

2026年6月

# 第一章：SAP FI の概要と役割

---

## FI とは何か

SAP FI (Financial Accounting: 財務会計) は、企業の「すべての金銭の動き」を公式な会計記録として記録・管理するモジュールです。売上が発生したとき、材料を購入したとき、設備を取得したとき——あらゆる業務イベントが自動的に仕訳(借方・貸方の複式簿記)として転記されます。

FI は「外部報告」のためのモジュールです。貸借対照表 (B/S) ・損益計算書 (P/L) ・キャッシュフロー計算書 (CF) という三大財務諸表を作成し、税務申告・株主報告・監査対応を行う基盤です。一方、「内部管理」のための原価管理・利益管理は CO モジュールが担います。FI と CO は密接に連携しており、FI の仕訳は CO の費用・収益に自動転記されます。

## FI を構成するサブモジュール

- GL (General Ledger: 総勘定元帳) : すべての仕訳の集計先。財務諸表のベースになる元帳。SAP S/4HANA ではユニバーサル仕訳帳 (Universal Journal: ACDOCA) として統合されています。
- AR (Accounts Receivable: 売掛金管理) : 顧客への売上請求・入金消込・督促管理を担当します。SD の請求書 (VF01) から自動的に売掛金仕訳が生成されます。
- AP (Accounts Payable: 買掛金管理) : 仕入先への支払い管理です。MM の MIRO (請求書照合) から買掛金仕訳が自動生成され、支払プログラム (F110) で自動支払いを実行します。
- AA (Asset Accounting: 固定資産管理) : 建物・機械・車両等の固定資産の取得・減価償却・除却・売却を管理します。税務上の耐用年数管理と会計上の耐用年数を複数の「償却領域 (Depreciation Area)」で並行管理できます。
- BL (Bank Accounting: 銀行会計) : 銀行口座残高の管理・銀行明細の取込・消込を管理します。電子銀行明細書 (BAI/MT940 形式) を SAP に取り込んで自動消込 (FF67/FEBA) を行います。

## 第二章：FIでできること・できないこと

---

### FIでできること

- 複式簿記による全業務イベントの自動仕訳：SD（受注・出荷・請求）・MM（入庫・請求書照合）・PP（製造指図完了）のすべての業務トランザクションが財務仕訳を自動生成します。手動での仕訳転記（FB01/FB50）は最小限で済みます。
- 多元帳管理（Multi-Ledger）：S/4HANAでは複数の会計基準（日本GAAP・IFRS・USGAPの並行管理）を「リーディング元帳」と「非リーディング元帳（Parallel Ledger）」で同時管理できます。一つの取引に複数の会計処理を同時記帳します。
- 多通貨管理：各会社コードに「会社コード通貨・グループ通貨・ハード通貨」の最大3通貨を並行管理できます。外貨建て取引は転記時と決算時の両方でレート差異（為替差損益）を計算します。
- 自動支払い（F110）：買掛金の期日管理・支払先振込・ネットティング（買掛・売掛の相殺）を自動化します。銀行ファイル出力（各国銀行フォーマット対応）も標準機能です。
- 固定資産の多軸管理（AA）：会計上の耐用年数・税務上の耐用年数・グループ連結用の耐用年数を「償却領域」として並行計算します。減価償却の自動実行（AFAB）で毎月の処理を自動化できます。
- 財務諸表の自動作成：OB58で財務諸表バージョンを設定すれば、S\_ALR\_87012284等で瞬時に貸借対照表・損益計算書を生成できます。

### FIでできないこと・注意が必要なこと

- 製品別の原価計算：FIは勘定科目単位の管理が主体であり、「製品Aの製造原価がいくらか」という製品別採算はCO（CO-PC）の役割です。FIの費用勘定は「どの費用か（費目別）」を管理しますが「どの製品・プロジェクトのためか」はCOで管理します。
- 消込ルールの柔軟なカスタマイズ：売掛金の消込（F-28・F-32）は残高の最も古いものから充当する等の標準ロジックがありますが、顧客ごとに完全に独

自の充当ルールを設定することは SAP 標準では難しく、BAdI による拡張が必要です。

- リアルタイムのキャッシュフロー予測: FI は実績の仕訳を管理するシステムであり、将来のキャッシュフロー予測（資金繰り計画）は SAP Cash Management モジュールまたは統合事業計画（IBP）の役割です。
- 決算後の仕訳修正: 会計期間のクローズ（OB52）後は当該期間への転記がブロックされます。修正仕訳は翌期に計上するか、特別権限でのバック転記（BKPF 参照）が必要です。

## 第三章：企業構造とマスターデータ

---

### FIの企業構造（設定の階層）

SAPの財務会計は「会社→会社コード→事業領域・セグメント」という階層で管理されます。この階層設定が誤るとすべての後続設定に影響するため、プロジェクト初期に確定させる最重要事項です。

- 会社（Company）OX15：グループ連結の最上位単位です。連結財務諸表を作成する親法人を指します。
- 会社コード（Company Code）OX02：独立した会計帳簿を持つ法的エンティティです。「日本法人」「米国法人」「シンガポール法人」が各々独立した会社コードを持ちます。すべての財務仕訳は会社コード単位で記録されます。
- 事業領域（Business Area）OX03：会社コード横断の事業部別財務諸表作成に使用します。ただしS/4HANAではセグメント（Segment）による管理が推奨されており、事業領域は旧来の概念です。
- セグメント（Segment）：IFRS8（セグメント情報の開示）対応のための報告セグメントです。セグメント別の損益表示がIFRS要件として求められます。

### 主要マスターデータ

#### 勘定科目（G/L Account）

すべての仕訳の転記先となる「会計上の科目コード」です。SAPでは「勘定コード表（Chart of Accounts: CoA）レベル」と「会社コードレベル」の二段階で管理します。グローバルグループでは「グループ共通 CoA」と「国別（カントリー）CoA」を紐付けることもあります。

- FSP0（コード表レベルの科目設定）：科目コード・科目名称・科目タイプ（BS/PL）・自動転記フラグを設定します。
- FS00（会社コードレベルの科目設定）：FSP0で作成した科目を特定会社コードに展開し、税コード・外貨管理・フィールド選択等の会社コード固有設定を行います。

## 得意先マスタ (Customer Master)

AR 管理の対象となる「売上を請求する相手先」です。XD01 で「会社コードレベル」と「販売エリアレベル」を同時に作成します。S/4HANA では BP トランザクション (BP) で FI 得意先・SD 得意先を一元管理します。

- 主要フィールド: 支払条件 (Payment Terms: 決済期間・割引条件) ・督促手順 (Dunning Procedure) ・照合勘定 (Reconciliation Account: 売掛金元帳と総勘定元帳の紐付け勘定) 。

## 仕入先マスタ (Vendor/Supplier Master)

AP 管理の対象となる「購買代金を支払う相手先」です。S/4HANA では BP トランザクション (BP) で仕入先マスタを管理します。

- 主要フィールド: 支払条件・支払方法 (銀行振込/手形) ・銀行口座 (支払先口座) ・照合勘定 (買掛金元帳と総勘定元帳の紐付け勘定) 。

## 固定資産マスタ (Asset Master)

固定資産台帳の基本単位です。AS01 (AS11 で資産サブナンバーの追加) で作成します。

- 主要フィールド: 資産クラス (Asset Class) ・場所・責任部門・耐用年数・取得コスト・帳簿価額。償却領域 (Depreciation Area) ごとに異なる耐用年数・償却方法を設定できます。

## 第四章：総勘定元帳（GL）業務

---

### 手動仕訳転記

人が直接仕訳を入力するケースは「月次費用の計上（賃貸料・保険料等の前払費用）・原価・収益の組み替え・FIとCOの手動整合調整」等です。

- FB50（G/L 勘定仕訳入力）：最もシンプルな仕訳入力画面です。借方・貸方の勘定科目と金額を入力します。
- FB01（伝票入力）：FI伝票の汎用入力トランザクションです。特定の伝票タイプ（SA: G/L 勘定・KR: 仕入先請求書・DR: 得意先請求書等）を指定して転記します。
- FBV0（仮転記）：確認・承認待ちの仕訳を「仮転記（Parked Document）」として保存し、承認後にFBV4で本転記します。ワークフロー承認と組み合わせるケースが多いです。
- FBD1（定期仕訳の設定）：家賃・保険料等、毎月同額の費用計上を「定期伝票（Recurring Entry）」として登録し、F.14（定期仕訳の実行）で自動生成します。

### 外貨再評価

外貨建て資産・負債（売掛金・買掛金・銀行残高の外貨部分）は、月末に「決算時レート」で再評価し、為替差損益を計上する必要があります。

- F.05（外国通貨の評価）：GLレベルで外貨残高を再評価します。評価レートはOB08（為替レートの入力）で事前に登録しておく必要があります。
- FAGL\_FC\_TRANS（S/4HANA用外貨再評価）：S/4HANAでは統合仕訳帳（ACDOCA）レベルでの外貨再評価を実行します。

### 期末決算処理（GL）

- GR/IR 仮勘定清算（F.13）：在庫済み未請求（GR/IR）の残高を確認し、期末に「引当計上」または「逆仕訳」で適切に処理します。
- 未実現為替差損益の計上と戻し（F.05の逆仕訳）：翌期首に前月末評価仕訳を自動逆仕訳（Reset）することで、翌期の期首処理を簡潔にします。

- 利益繰越 (F.16) : 期末 (年度末) に損益勘定の残高を「翌期繰越利益勘定」へ振り替えます。SAP は通常この処理で翌期の B/S を自動的に開始残高として設定します。
- 財務諸表の出力 (S\_ALR\_87012284) : B/S・P/L・キャッシュフロー計算書  
を出力します。財務諸表バージョン (OB58) の設定内容に従って勘定科目が  
分類・集計されます。

## 第五章：売掛金管理（AR）

---

### 売掛金の発生

SDの請求書（VF01）が転記されると、自動的に「売掛金勘定 Dr / 売上高勘定 Cr」の仕訳が生成されます。FI担当者が手動で売掛金を立てる必要はなく、SD担当者の請求書転記が自動的にAR仕訳を生成します。これがSAPの「統合（Integration）」の最大の価値です。

- 手動の顧客請求書（FB70）：SDを経由しない手動の売掛金計上（家賃収入・補助金等）はFB70で入力します。

### 入金消込

顧客から入金があったら、銀行明細上の入金額と「どの請求書への支払いか」を照合・消込します。

- F-28（入金の転記）：銀行から入金通知を受けて、当該得意先の未入金請求書と照合します。完全一致の場合は自動消込、差異（端数・割引）がある場合は差異調整仕訳を同時に計上します。
- F-32（未消込項目の消込）：既に入金転記されているが未消込の項目（請求書と入金額がバラバラに転記されている場合）を手動で照合・消込します。
- FF67/FEBA（電子銀行明細の取込と自動消込）：銀行の電子明細書（MT940・BAI2形式）をSAPに取り込み、顧客番号・金額・支払参照番号等から自動消込します。自動消込率が高いほどAR担当者の工数が削減できます。

### 督促管理（Dunning）

支払期日を過ぎた未払い請求書を持つ顧客に「督促状」を送付する管理です。SAP標準で「第1督促（リマインダー）→第2督促→第3督促（法的措置予告）→第4督促（法的措置）」等の複数段階の督促ステップを管理できます。

- F150（督促の実行）：督促実行日を指定してF150を実行すると、督促対象の得意先・明細を自動抽出し、督促状を出力します。

- FBL5N（得意先明細表示）：得意先ごとの未消込・消込済み請求書一覧を表示します。債権管理の日常業務で最も多用するトランザクションです。

## 貸倒引当・与信管理

- FD32（与信限度額の設定）：得意先の与信枠（Credit Limit）を設定します。SDの受注処理でATP確認と同時に与信チェックが行われ、与信超過の場合は受注または出荷がブロックされます。
- F.31（与信概要）：得意先の現在の与信使用状況（受注残＋出荷残＋請求残＋AR残高の合計）を確認します。

## 第六章：買掛金管理（AP）

---

### 買掛金の発生

MMのMIRO（請求書照合）が転記されると「GR/IR 仮勘定 Dr / 買掛金勘定 Cr」の仕訳が自動生成されます。FI担当者が買掛金を手動計上するケースは少数です。

- FB60（仕入先請求書の手動入力）：MMを経由しない手動の買掛金計上（経費の請求書・MMに品目マスタがないサービス費用等）はFB60で入力します。

### 自動支払プログラム（F110）

F110は「いつ・誰に・いくら・どの銀行から支払うか」を自動計算し、銀行振込ファイルを出力するSAPの最重要AP機能です。

- ステップ①：支払実行のパラメーター設定（支払実行日・次回支払日・支払方法・会社コード）。
- ステップ②：支払提案リストの生成（F110実行後の「提案」タブ）：支払期日が到来した全買掛明細が表示されます。
- ステップ③：提案リストのレビューと修正：ブロックされた支払い（Hold）・部分支払い・優先支払いを調整します。
- ステップ④：支払実行（決済仕訳の自動生成）：「買掛金勘定 Dr / 銀行勘定 Cr」の仕訳が自動生成されます。
- ステップ⑤：銀行ファイルの出力：DMEE（Data Medium Exchange Engine）で各銀行の振込ファイル形式に変換し、インターネットバンキングへのアップロード用ファイルを出力します。
- FBL1N（仕入先明細表示）：仕入先ごとの未払い・支払済み買掛金明細を確認します。AP管理の日常業務で最も多用します。

### 前払い金管理

- F-47（前払い申請）・F-48（前払い支払転記）：設備購入・特注品の着手金等の前払いを「特殊総勘定元帳（Special G/L）：A（Advance）」として管理します。通常の買掛金（K）とは別立てで管理し、仕入先に過払いしないよう残高を追跡します。

- 前払金の相殺（MIRO 後）：最終請求書（MIRO）照合時に F-54 で前払金を相殺し、差額のみ支払います。

## 第七章：固定資産管理（AA）

---

### 資産の取得

- ABZON（外部取得の転記）：現金購入・クレジット購入で取得した資産を計上します。「固定資産勘定 Dr / 現金(または買掛金) Cr」。
- MM を経由した資産取得：設備を MM で発注・在庫した場合、MIGO 入庫時に「GR/IR 仮勘定 Dr / 資産仮勘定 Cr」となり、資産計上が完了します（Account Determination：資産購買）。
- AB01（資産仮勘定からの資産化）：建設仮勘定（AuC: Asset under Construction）として積み上げた工事費用を、工事完了後に本資産へ振替えます。

### 減価償却

固定資産は使用に伴い価値が減少します（減価償却）。SAP では月次で AFAB を実行し、各資産の減価償却費を自動計算・転記します。

- 償却領域（Depreciation Area）：税務上の加速償却・会計上の定額法・グループ連結用 IFRS 基準を「償却領域 01：会計（リーディング元帳）・02：税務・03：IFRS」として並行管理します。各領域で異なる耐用年数・償却方法（定額法・定率法）を設定できます。
- AFAB（減価償却の転記）：月次（または年次）に実行し「減価償却費 Dr / 資産減価累計額 Cr」を自動転記します。テスト実行→本実行の二段階で実行します。
- AFAR（再計算）：資産マスタの耐用年数・取得価額が変更された場合に、過去の減価償却を再計算します。

### 資産の除却・売却

- ABAO（除却：廃棄）：使用不能となった資産を廃棄する場合。「減価累計額 Dr / 資産 Cr / 除却損 Dr」の仕訳。
- F-92（売却：一部取得価額を含む）：資産を売却する場合。売却額と帳簿価額の差額が「固定資産売却損益」として計上されます。

## 固定資産レポート

- AW01N（固定資産元帳の表示）：個別資産の取得価額・減価累計額・帳簿価額・減価償却費推移を確認します。
- S\_ALR\_87011964（固定資産台帳）：会社コード全体の固定資産一覧（台帳）をエクスポートします。

## 第八章：決算処理（月次・年次クローズ）

---

### 月次クローズのチェックリスト

月次クローズとは「当月中のすべての業務処理を確定し、当月の財務諸表を確定させる一連の処理」です。以下の順序で実行します。

- Step1 GR/IR 仮勘定確認 (F.13/MR11)：月末時点で「在庫済み未請求」の GR/IR 残高を確認します。MIRO 処理漏れがあれば担当者に督促します。
- Step2 未払費用・前払費用の計上 (FB50)：月末に費用の見越 (Accrual) ・繰延 (Deferral) 仕訳を手動または定期仕訳で計上します。
- Step3 固定資産の減価償却 (AFAB)：当月分の減価償却費を一括で転記します。
- Step4 外貨再評価 (F.05/FAGL\_FC\_TRANS)：外貨建て残高を月末レートで再評価し、為替差損益を計上します。
- Step5 原価センタ配賦 (KSV5/KSU5)：CO の費用配賦を実行し、CO と FI の整合を取ります。
- Step6 会計期間のクローズ (OB52)：当月の転記期間をクローズします。以降は当月への仕訳転記が不可になります。
- Step7 財務諸表の出力・確認 (S\_ALR\_87012284)：B/S・P/L を出力して確認します。

### 年次クローズ追加処理

- 法人税等の計上 (FB50)：税引前当期純利益に税率を掛けた「法人税等」「法人税等調整額」を手動または自動で計上します。
- 利益繰越 (F.16)：損益勘定 (売上・費用) の残高を「0」にして翌期繰越利益勘定へ振替します。
- 資産台帳の年次クローズ (AJRW)：固定資産管理の会計年度を繰り越します。これにより翌年度の減価償却計算が可能になります。

## 第九章：End-to-End トランザクション操作ガイド

---

### シナリオ：月次 AP サイクル（仕入先への支払）

#### Step1: 仕入先請求書の受領と照合

- MIRO（ロジスティクス請求書照合）：MMで受領した入庫を参照して仕入先請求書を入力します。発注書・入庫・請求書の三点照合（3-Way Match）を実施します。差異が許容範囲内ならば「買掛金勘定 Cr」の仕訳が自動生成されます。
- FB60（直接費用の請求書）：MIROでは処理しない経費請求書（出張費・コンサル費等）はFB60で直接入力します。

#### Step2: 未払明細の確認

- FBL1N（仕入先明細：未消込明細）：支払期日が到来した未払い明細の一覧を確認します。支払優先度・ブロック解除を確認します。

#### Step3: 自動支払の実行

- F110（支払プログラム）：支払実行日・支払方法・対象会社コードを設定して提案リストを生成。確認後に支払実行→「買掛金 Dr / 銀行 Cr」。

#### Step4: 銀行照合

- FF67（銀行明細の入力）または電子銀行明細の自動取込：銀行口座の動きをSAPに取り込みます。
- FEBA（銀行明細の後処理）：取り込んだ銀行明細と支払仕訳を自動照合・消込します。

### シナリオ：AR サイクル（顧客への請求と入金）

- VF01（SDからの請求書）→自動的にAR仕訳（FB70不要）。
- FBL5N確認→F-28入金消込（または自動消込FF67/FEBA）→FBL5N再確認（残高ゼロ確認）。

## 第十章：SPRO コンフィグ設定ガイド

---

### 企業構造

- OX15（会社の設定）：グループ連結の最上位単位を設定します。グループ通貨はここで決定し、後から変更不可です。
- OX02（会社コードの設定）：会社コード・通貨・国・言語・勘定コード表を設定します。EC01 で既存会社コードをコピーして設定工数を削減できます。
- OX16（会社・会社コードの割当）：設定した会社と会社コードを紐付けます。
- OB45（与信管理領域）・OB38（会社コードへの割当）：与信チェックの管理単位を設定します。

### 財務会計基本設定

- OB29（会計年度バリエーション）：1月～12月型・4月～3月型（日本標準）等の会計年度パターンを設定します。特別期間（13～16期：決算調整用）の設定もここでを行います。
- OB37（会計年度バリエーションの会社コード割当）：OB29 で作成したバリエーションを会社コードに割り当てます。
- OBBO/OBBP（会計期間バリエーション）・OB52（会計期間オープン）：「どの期間への転記を許可するか」を制御します。OB52 で転記可能な期間を開放・クローズします。
- FINSC\_LEDGER（元帳と通貨タイプの設定）：S/4HANA でのマルチ元帳設定。リーディング元帳（0L）に加えてIFRS用元帳（L1）等を追加します。
- OBY6（グローバルパラメーター）：会社コードの言語・国・勘定コード表を確認・設定します。

### 勘定科目・番号範囲

- OB13（勘定コード長）：勘定科目番号の桁数（例：10桁）を設定します。一度設定すると変更不可。
- OBD4（勘定グループ）：資産・負債・損益等の科目区分グループを設定し、番号範囲と表示レイアウトを紐付けます。

- FBN1（番号範囲）：FI伝票の番号範囲を設定します。会計年度別に番号がリセットされる設定が一般的です。
- OB53（損益繰越勘定）：年次の利益繰越（F.16）で使用する「繰越利益（剰余金）勘定」を指定します。

## 税コード・銀行

- OBCL（非課税コードの割当）：非課税取引コードを会社コードに割り当てます。MMの仕入先請求書照合で使用します。
- FI12（銀行口座の設定）：会社の銀行口座（口座番号・銀行コード）を登録します。F110（支払プログラム）の支払口座として使用します。
- OT83（電子銀行明細書の設定）：銀行明細書のフォーマット（MT940・BAI等）を設定します。自動消込ルールもここで定義します。

## AP・AR基本設定

- FBZP（支払プログラム設定）：F110の自動支払で使用する支払方法（銀行振込・手形等）・手数料コード・銀行ランキングを設定します。
- OBA3（得意先/仕入先許容範囲）：請求書と入金との差異が許容範囲（例：100円以内）の場合に自動消込するルールを設定します。
- OBB8（支払条件）：「30日以内・2%割引。60日以内・正味」等の支払条件コードを定義します。得意先・仕入先マスタのデフォルト支払条件として使用します。

以上